

# 平成 27 年度 学校自己評価システムシート（山村国際高等学校）

本年度努力目標	<p>1 学習指導においては、基礎・基本の徹底を図るとともに、応用力の育成に努める。</p> <p>2 進路指導においては、一人ひとりの進路に応じた適切な指導と、自己理解に向けた支援に努め、進路実現に努める。</p> <p>3 生徒指導においては、基本的生活習慣の確立に努めるとともに、自他を尊重する寛容と協力の精神の育成に努める。</p>
---------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	おおむね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※第三者評価実施日とは、最終回の第三者委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	第三者委員	4	名
-----	-------	---	---

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価（3月7日現在）		
年 度 目 標					年 度 評 価（3月7日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○基礎学力の不足は常態的課題である。その克服のためにも、まず「授業」にどう向きあうかを考えねばならない。	学習指導	○一時間一時間の授業に真摯に臨む姿勢を身に付けさせる為の工夫・研究を重ねる。 ○「わかる」ということの内実を充実させる。	○生徒の私語・居眠りは減り、前向きに授業に取り組む姿勢が窺えるか。 ○「わかる」ことが達成されたか。	生徒の私語・居眠りは依然として残っており、授業内容に対する不満も増加している。	C	私語・居眠りも授業内容も、クラスによって、担当教員によって格差が生じている傾向が見られるため、今まで以上に教員のスキルアップのための研修を導入していく必要がある。
2	○教室環境を整え、生徒一人ひとりが協同してクラス作りに参加する自発性を養成することに努める。	学級経営	○一人ひとりの役割とその責任を意識づける。 ○他者を常に自己の指標とする協同性を身に付けさせる。	○教室は常に整頓されているか。 ○クラスの友人関係は良好か。 ○役割は責任をもって果たされたか。	全体的には、良い方向に向かっているが、クラス間格差が見られ、そのことによる生徒の不満も存在する。	B	教員と生徒とのコミュニケーション能力が下がっていると思われる、これに対しても、教員のスキルアップのための研修を導入していく必要がある。
3	○基本的生活習慣の確立 ○公平・公正な視点からルールの遵守について身に付けさせねばならない。 ○保護者との協力	生徒指導	○あいさつ、遅刻および他を思いやる心、言葉づかいの指導を図る。 ○保護者との連携を密にし、しっかりと協力する。	○基本的生活習慣は身に付いたか。 ○保護者の理解を得た指導が行われたか。	大きな変化もなく、おおむね達成されていると思われるが、服装については、更なる指導が必要と思われる。	B	服装指導（特に女子スカート丈）が次年度の大きな課題となる。教員間で共通認識をもち、粘り強く指導を続けていく必要がある。
4	○目的を明確にし、自己の将来設計をしっかりと考えさせる。 ○一人ひとりに懇切に接し進路実現に向ける。	進路指導	○的確な進路指導の充実。 ○一人ひとりの適性を見極め、指導することで個々の意識を明確にする。 ○数値目標の設定。	○生徒一人ひとりが自己の進路についてしっかりと考えることができたか。 ○数値目標は達成できたか。	数値目標はおおむね達成できたが、生徒の進路意識をもう少し高める指導があると思われる。	B	ここ数年、様々な事を導入してきており、これらをいかに有効に活用するかが次年度の課題となる。
5	○すべての生徒が行事や部活動に積極的に参加するよう全体で取り組み、学校力の活性化を図る。	学校生活	○すべての生徒が協同して行事・部活動に参加できるように的確な指導を行う。 ○部活動の活性化と充実した成果をめざして指導する。	○生徒は積極的に行事や部活に参加したか。 ○部活動は充実した成果をあげることができたか。	今年度も高評価を受け、部活動も好成績をあげていることから、目標はほぼ達成していると思われる。	B	行事・部活動は生徒も積極的に参加しており、活性化している。今後は更に各部活動の大会成績等も少しでも上がるような指導体制を含め、更なる改革を進めていく必要がある。

第 三 者 評 価	
実施日 平成28年 3月12日	
第三者委員からの意見・要望等	評価
授業妨害となるような私語が増加しているようである。少数のクラスのような改善していただきたい。	B
生徒の不満がクラスによって大きく異なるようであるが、教員のスキルアップと同時に生徒自身に自覚・努力を促す必要があるのではないかと。	B
スカート丈対応は学校としては難しい問題。しかしながら、犯罪被害も懸念され、生徒の安全のためにも、信念を持ったぶれない指導を続けていただきたい。	A
大学進学者も50%を超え、着実に成果が上がっているのではないかと。	A
アンケートでは、Dが増えているのが目立ってはいるが、Aは極端に下がっておらず、大きな問題とは思えない。保護者はほとんど変わっておらず、十分に達成していると思われる。	A